

ヤングケアラー

大阪発、寄り添い・支援を考える
シンポジウム

資 料

2023年1月15日（日）

13：30～16：00

大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

ホール（7階）

主催：大阪府

目次

● 基調講演

「ヤングケアラーの実態と必要な支援」	1
「元ヤングケアラーの語り」	13

● 活動報告

「地域での連携・支援を考える」	
大阪府教育庁教育振興室高等学校課	19
大阪市こども青少年局企画部企画課	21
NPO 法人やんちゃまファミリーwith	25
社会福祉法人八尾隣保館	25
特定非営利活動法人み・らいず2	26
一般社団法人こもれび	26
特定非営利活動法人ふうせんの会	27

● みなさまからいただいたヤングケアラーへのエール

	28
--	----

● 基 調 講 演

「ヤングケアラーの実態と必要な支援」

大阪歯科大学教授 濱島 淑恵 氏

ヤングケアラーの実態と必要な支援

大阪歯科大学医療保健学部
(社会福祉士コース)
濱島淑恵

ヤングケアラーの定義

- ▶ 日本では正式な定義はまだない。
- ▶ 日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト
「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」
- ▶ 18歳以上の若者世代のケアラーも支援が必要。

2

ヤングケアラーの実態調査と存在割合

- ▶ 2016年 濱島・宮川 大阪府における高校への調査
ヤングケアラーの存在割合 約5%
- ▶ 2020年度 厚労省 全国中2・高2への調査
中2 約6%、高2 約4%
- ▶ 2021年度 厚労省 全国小6、大学3年 約6%
- ◆ 2021年度 大阪市立中学の生徒を対象とした調査 約9%
- ◆ 2022年度 大阪府立高校の生徒を対象とした調査 約11%

3

誰のケアをしているのか？

要介護状態である
(身体機能の低下、認知症)

祖父・祖母

父親：依存症である

幼いため

きょうだい

父親・母親

病気や障がい
等を有する

障がいを有する



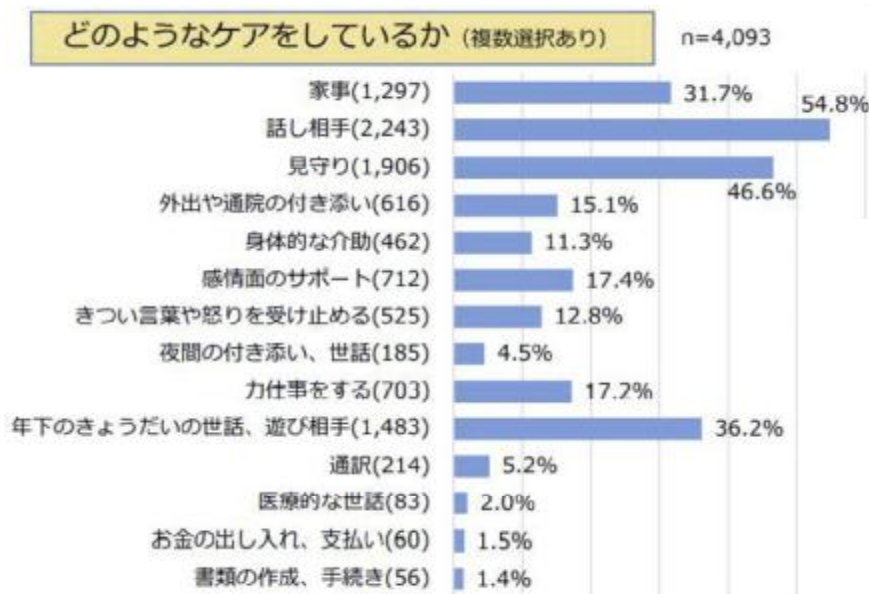
母親：精神疾患・
精神障がいがある

外国にルーツのある
ヤングケアラーも

5

どのようなケアをしているのか？

□ 2021年大阪府中学生調査



※大阪府中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査（家庭生活と学校生活に関する調査）
調査結果速報より

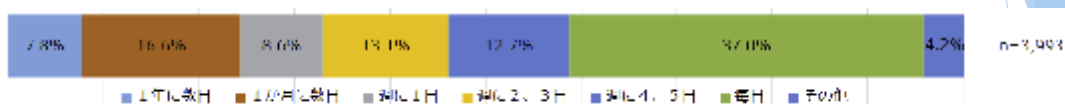
子どもがしているケアの内容

家事、見守り、話し相手、
年下のこどもの世話、外出時の介助
感情的サポート
身体的な介護、医療的ケア など幅広い。

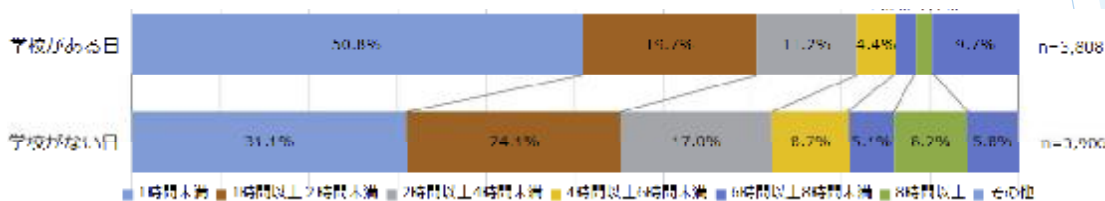
家事も毎日のことになると大変。時間もかかる。
見守りだけでも生活が縛られる。
感情的サポート、話し相手は単なるおしゃべりとは違う。

ケアの頻度と時間

2021年大阪市中学生調査



毎日が約4割で最も多い。毎日のようにケアをしている者が約半数。



1時間未満が最も多い。学校がある日は2時間以上が約2割。学校がない日はケア時間が長くなる傾向がみられる。

※大阪市中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査（家庭生活と学校生活に関する調査）
調査結果速報より

□ 2022年 大阪府高校生調査



※「令和4年度 府立高校におけるヤングケアラーに関する調査結果について」より

「ほぼ毎日」が約4割。
3時間未満が約8割。3時間以上が約1割。

- ほぼ毎日ケアをしているケースが多いが、時間数は短いケースが多い。
- ただし、長時間のケアを担うケースもあり、休みの日の方が長時間になる傾向があり、負荷が大きいと考えられるケースも一定数存在する。
- 負荷が大きくなっている子どもを把握して支援する。
- 現在は負荷が大きくななくても、その後、変化する可能性があるため、早い段階からの見守り、声かけが大切。

どのような問題、困りごとを
抱えやすいか？

ヤングケアラーが抱えやすい問題・困りごと

学校生活への影響

遅刻、欠席、宿題等の忘れもの、居眠り、
成績不振、先生との関係

衛生面・栄養面

親子関係の逆転・
「親」の欠如

孤立・孤独

「誰にも話せない」
介護ロス／ケアロス

健康面への影響

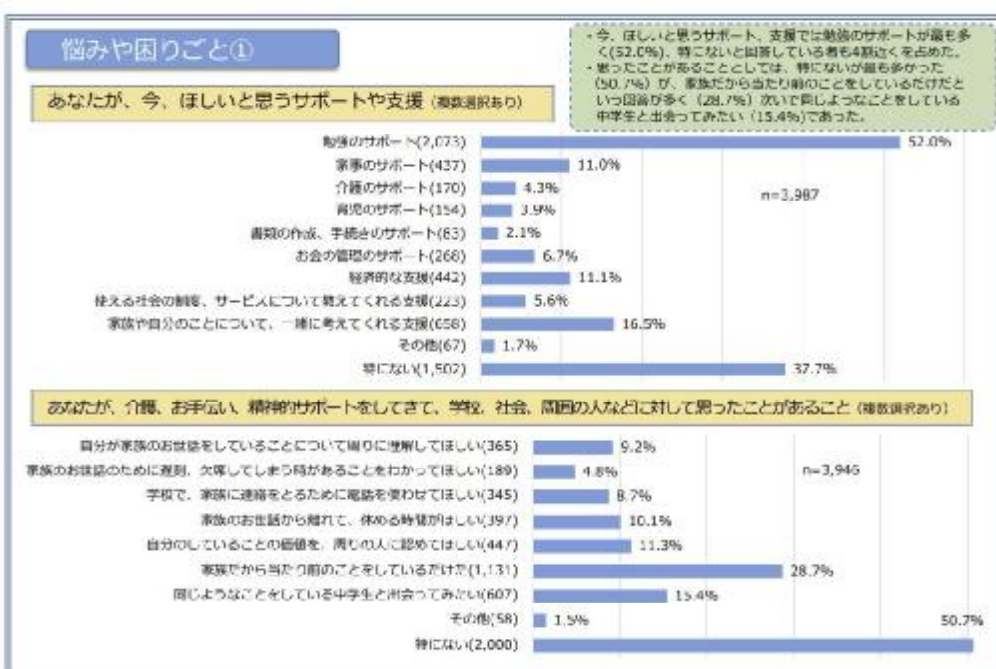
精神的健康、身体的健康への影響
(慢性的疲労状態、情緒不安定等)

友人関係への影響

「友人関係が上手くいっていない」
話が合わない、親しい友人ができない
部活動でトラブル

必要な支援は？

(2021年大阪市中学生調査)



※大阪市中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査(家庭生活と学校生活に関する調査)調査結果速報より

2022年大阪府高校生調査

【府立高校全体の回答者】

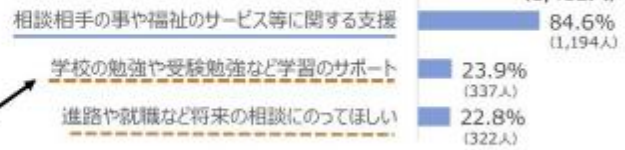
(学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援)

複数回答
(9,236人)



(支援を望むと回答した生徒の内訳)

複数回答
(1,412人)



【参考】令和3年度府調査 府立高校全体

(学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援)

(複数回答)



※「令和4年度 府立高校におけるヤングケアラーに関する調査結果について」より

- (1) 知る・理解する
- (2) ヤングケアラーに周囲が気付く
- (3) ヤングケアラーの家庭への支援 (ケアの負担軽減)
 - ・医療や福祉サービスの利用につなぐ。
 - ・専門職はケアプラン、支援計画を見直す。
- (4) ヤングケアラー自身の支援
 - 交流する場、学習支援、食事面の支援
 - レスパイトサービス、進路・人生設計の支援
 - 寄り添う支援
- (5) ヤングケアラー支援のネットワークづくり

ご清聴ありがとうございました。

調査にご協力くださった生徒の皆さん、
先生方に心より御礼申し上げます。

本報告は科学研究費補助金(課題番号: 17K04256, 20H01606)
を得て行っている調査研究の一部である。

「元ヤングケアラーの語り」

特定非営利活動法人 ふうせんの会

高岡 里衣 氏 清崎 鈴乃 氏

毎日が精一杯

うれしかったことば

支えになったこと

今、家族のケアを担っている子ども・若者のみなさんへ

- 毎日やらないといけないことがたくさんあって精一杯。まずは、そんな自分を「よくがんばってるな」ってほめてあげてください。大切な家族に代わりはしないように、ケアをしているあなた自身も、たった一人のかけがえのない存在です。
- もし周りに「話してもいいかも」と思える大人がいたら、うまく話せなくても、ぜんぶ話さなくてもいいから、少し話してみてください。知っている大人に話しにくいときは、「ふうせんの会」に話してみてください。



ケアを担うということ

うれしかったことば

支えになった小さな関わり

今、家族のケアを担っている子ども・若者のみなさんへ

- ケアを経験した私が今、あえて言葉を届けるのであれば、「あなたが、あなたの人生を生きることをあきらめないでほしい」です。あなたの声を、あなたの言葉で、社会に怒り、社会に嘆き、社会に訴えてほしいです。
- あなたの声を聴きたいと待っている人は必ずいます。
- それはすぐには変わらないかもしれない、それはすぐに見つからないかもしれない。でも、怒っていいし、嘆いていいし、笑っていいんです。どんな気持ちも、どんな夢や目標も、持っていいんです。
- 実は、私はそうするのが、そう考えるのが苦手です。だから、一緒に練習してくれませんか？一緒に怒って、嘆いて、笑って、自分って幸せになっていいんだって思えるように。



● 活動報告

「地域での連携・支援を考える」

大阪府教育庁教育振興室高等学校課	今谷 康太 氏
大阪市こども青少年局企画部企画課長	寺田 晃 氏
NPO 法人やんちゃまファミリーwith	田崎 由佳 氏
社会福祉法人八尾隣保館	近藤 龍太郎 氏
特定非営利活動法人み・らいず2	木之本 夏美 氏
一般社団法人こもれび	菅野 幸里 氏
特定非営利活動法人ふうせんの会	森田 香陽 氏

① ヤングケアラーの実態に関する調査研究
(厚生労働省他令和2年度)

世話をしている家族が「いる」と回答した子ども
・中学2年生で5.7%
・全日制高校2年生で4.1%

② 府立高校におけるヤングケアラーに関する実態調査
(令和3年度) 概要

調査期間：令和3年9月から10月
回答者数：20,182人 回答率：19.7%
※1,312人(6.5%)が世話をしている家族がいると回答

③ 令和4年度より府立高校において実施している支援策

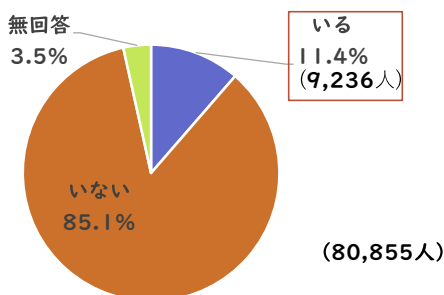
- 府立学校における実態調査
- OSSWの体制強化
 - ・SSWの配置促進
 - ・SSWSVの配置
- キャリア教育コーディネーターの配置
- 学習支援スタッフの配置
- 早期発見力強化(教職員向け研修)

④ 府立高校におけるヤングケアラーに関する実態調査
(令和4年度) 概要

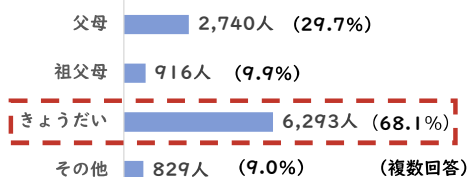
調査期間：令和4年7月から9月
回答者数：80,855人 回答率：74.0%
※9,236人(11.4%)が世話をしている家族がいると回答

府立高校におけるヤングケアラーの実態 (令和4年度調査結果より①)

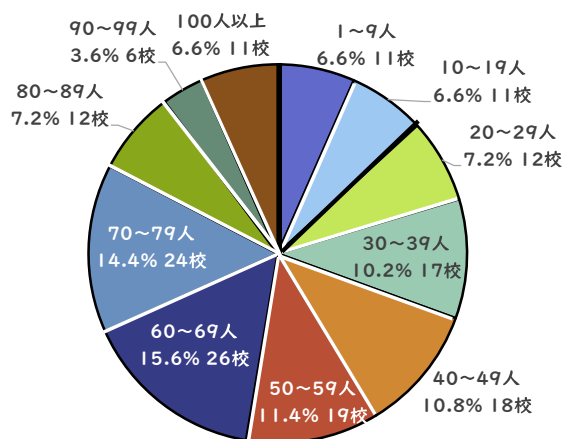
(1) 府立高校全体の回答者



(2) 「いる」と答えた生徒9,236人のうち、世話をしている家族の内訳



(3) ヤングケアラーの在籍状況

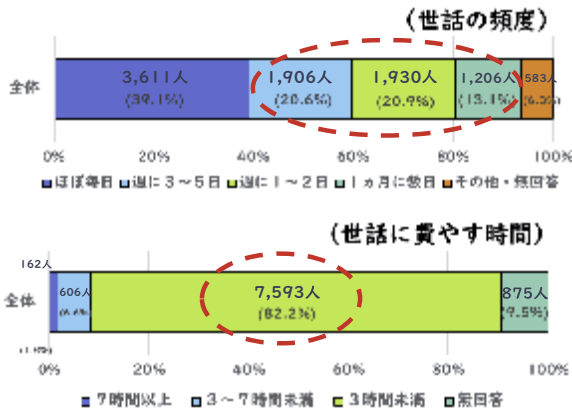


☑家族の世話をしている生徒が全ての府立高校に在籍。
☑家族の世話をしている生徒が20人以上在籍している高校は145校(8割以上)あり、最も多い高校では、126人の生徒が在籍。

☑世話をしている家族がいる府立高校生は、回答者全体の11.4%(9,236人)。

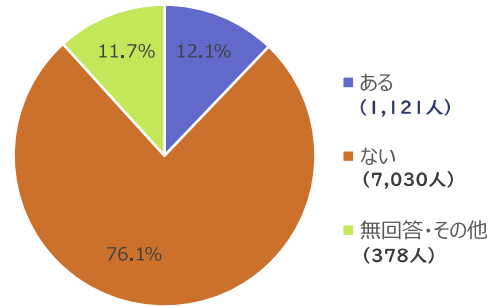
府立高校におけるヤングケアラーの実態 (令和4年度調査結果より②)

(4) 世話の頻度・費やす時間



- ☑世話をしている家族がいると回答した生徒のうち、世話の頻度について、「ほぼ毎日」行っている生徒が約4割存在。
- ☑世話に費やす時間について、「3時間未満」の生徒が約8割、「3時間以上」の生徒が約1割存在。

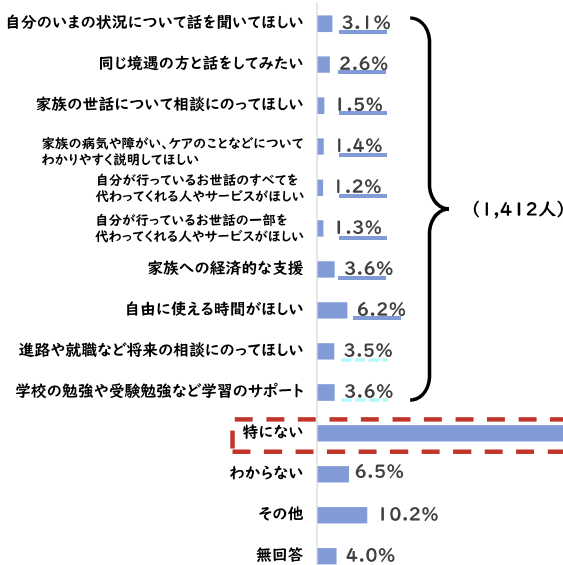
(5) 世話について相談した経験



- ☑世話をしている家族がいると回答した生徒のうち、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを相談したことがある生徒は約1割であり、7割を上回る生徒は相談した経験が無い。

府立高校におけるヤングケアラーの実態 (令和4年度調査結果より③)

(6) 生徒が求める支援について



- ☑世話をしている家族があり、支援を望むと回答した生徒は全体の約15%(1,412人)
- ☑そのうち、相談相手の事や福祉のサービス等に関する支援を求める声が約8割(1,194人)、学習面のサポートや進路・就職等の相談を望む回答がそれぞれ約2割存在(令和3年度はそれぞれ約5割)
- ☑昨年度よりも、相談相手の事や福祉のサービス等に関する支援を求める声が増加。

1. 大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査結果の概要

■ 調査の概要

・大阪市立中学校128校の1年生～3年生51,912人（令和3年12月末現在）を対象にして、令和3年11月中旬から令和4年1月上旬の期間に授業時間等を活用して実施。有効回答数45,268人（有効回答率87.2%）

◆ ヤングケアラーの存在割合

・ケアを要する家族がいる、自分がその人のケアを担っていると回答した者をヤングケアラーとみなした場合、

ヤングケアラーの存在割合は、9.1%。

◆ ケアを要する家族及びケアの内容

・ケアの相手「弟・妹」、「祖母」、「祖父」等の順に多かった。

・ケアの内容「話し相手」が最も多く、「見守り」、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」と続いた。

◆ ケアの頻度と時間

・「毎日」が最も多く、「週4, 5日」と合わせるとほぼ毎日と回答した者が約5割。

・学校のある日、ない日ともに「1時間未満」が最も多かった。「8時間以上」と回答した者もいた。

◆ 健康感と学校生活

・ケアをしている者の方が、ケアをしていない者と比べて、「欠席の日数」や「遅刻」、「宿題忘れ」の回数が多い傾向であった。

◆ 悩みや困りごと

・ほしいサポートや支援について

「勉強のサポート」が最も多く、「家族や自分のことについて、一緒に考えてくれる支援」等が挙げられた。

・学校、社会、周囲に対して思うこと

「家族だから当たり前のことをしているだけだ」、「同じようなことをしている中学生と会ってみたい」等が挙げられた。

2. 有識者からの意見を踏まえた支援策のとりまとめ状況

有識者から頂いた主な意見	令和5年度予算要求事項	令和4・5年度取り組み内容	(参考) 令和4年度
1. 周知・啓発を進め、安心して話せる環境を整備する			
すべての領域において、初めは基礎的なこと、次に学校現場・福祉現場の支援のあり方のように段階を踏んで、周知・啓発を行っていくことで、社会がまず認識することが必要	ヤングケアラー支援推進事業	・福祉・介護等関係機関、地域の関係者などへのヤングケアラーについて、社会的認知度の向上を図る ・こどもたち自身の認知度向上に向けた周知	ヤングケアラー支援推進事業
相談するのではなく、安心して話せる環境を作ることが必要		・教員へのヤングケアラーについての理解促進に向けた研修 ・学校内におけるヤングケアラーの発見、支援に向けた対応等を検討	
2. ケア負担を軽減するケアサービスの整備、支援計画の見直し			
学校において、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用について、現行の仕組みを活かし、そこに「ヤングケアラー支援」という視点を取り入れることで取り組みをさらに強化する。	スクールカウンセラー事業 (P8) ヤングケアラー支援推進事業 (スクールソーシャルワーカー事業) (P9)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの拡充など教育現場への支援を実施	スクールカウンセラー事業
ヤングケアラーがいる家庭への家事、育児のサービスを整備していくことが必要。	家事・育児訪問支援事業 (P10)	要保護・要支援家庭（ヤングケアラーがいる家庭を含む）に対する家事・育児支援を実施	

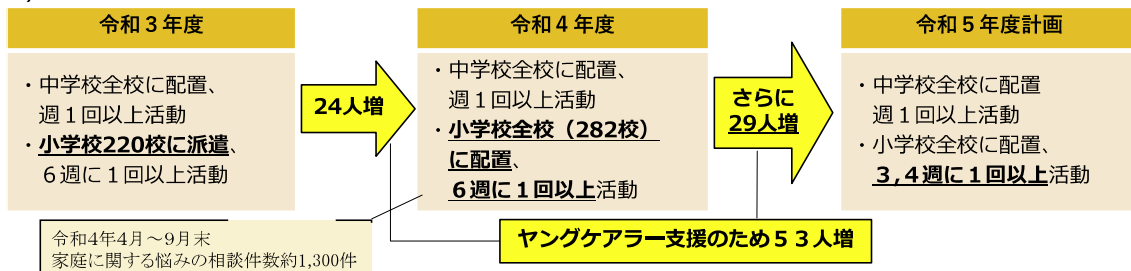
有識者から頂いた主な意見	令和5年度予算要求事項	令和4・5年度取り組み内容	(参考) 令和4年度
3. ヤングケアラー自身への支援、サービスの整備			
学習支援や居場所づくりで、ヤングケアラー支援という視点で構築して見る必要がある		学校によってサポーター職員を配置して放課後に学習支援	
特に、ヤングケアラーと思われる生徒に関する情報共有、配慮や対応の方法に関するルールづくりを行い、組織として取り組む必要がある		1人1台学習者用端末によるデジタルドリルを活用して学習面での支援を検討	
4. コーディネーターを配置したヤングケアラー相談窓口の設置			
ヤングケアラーの相談窓口を行政の中に作っていく、または、明確化することが必要	寄り添い型相談支援事業 (P11)	寄り添い型相談支援事業でピアサポートの拡充 外国語対応通訳派遣を実施 各区子育て支援担当 相談窓口	寄り添い型相談支援事業 ※8月から実施
5. 多職種連携を進める仕組みづくり			
ヤングケアラーとその家族の背景には複合的な課題が潜むケースが考えられ、例えば、世帯の貧困問題や、児童虐待や不登校、ひきこもりという現象が、子どものケアと密接に関係している可能性がある		総合的な相談支援体制の充実事業（総合的な支援調整の場（つながる場））	
ヤングケアラーという側面はもとより、複合的な課題に対し、学校、多職種、地域がチームとなって取り組む視点が求められる		要保護児童対策地域協議会 など	

3. ヤングケアラーへの支援策について（令和5年度予算要求事項）

ケア負担を軽減するケアサービスの整備、支援計画の見直し

① スクールカウンセラー事業

(Ⅰ) スクールカウンセラーの体制充実（相談しやすい環境の整備）



(Ⅱ) 学校におけるヤングケアラーへの気付き・家庭の状況把握

○子どもサポートネットのスクリーニングシートを活用し、ヤングケアラーに気付けるようにする。

○スクールカウンセラーから声掛けを行い、家庭の状況やケアの負担感の把握に努める。

(Ⅲ) ヤングケアラーへの支援

○子どもサポートネットのスクリーニング会議等を通じて、スクールソーシャルワーカーや区役所と連携し、各種支援につなげていく。

○スクールカウンセラーは、ヤングケアラーがいつでも気軽に相談ができる関係を作り、心理面の支援を行う。

②ヤングケアラー支援推進事業（スクールソーシャルワーカー事業）

本市中学生対象の実態調査結果を踏まえ、ヤングケアラーの早期発見と支援を充実させるため関係機関等との連携や、教育的支援を担うSSWを、**32人増員**。

- チーム学校の一員としてヤングケアラーの早期発見及び支援に係る教員への助言
- スクールカウンセラーとの連携を強化
- こどもサポートネットのスクリーニング会議Ⅱにおけるヤングケアラーに係るアセスメント及び支援方針・支援計画の検討
- 支援機関への適切なつなぎ



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

9

③家事・育児訪問支援事業

事業内容	家事・育児等に対して不安や負担を抱える子育て家庭、ヤングケアラー等がいる家庭の居宅を、訪問支援員が訪問し、家事・育児等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整える。
対象家庭	0～18歳の児童がいる家庭のうち <ul style="list-style-type: none"> ・家事や育児等に対し不安・負担を抱えた要保護、要支援の家庭 ・ヤングケアラー等が過度な家事や育児等のケアを担っている家庭〔100世帯対象〕
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援（食事の準備、洗濯、掃除、買い物の代行支援等） ・育児支援（授乳、おむつ交換、沐浴介助、保育所等の送迎支援等）
支援頻度	1回につき2時間（目安：1週間あたり1回、1か月あたり4回）
利用負担額	無 料
スケジュール	令和5年5月 事業者公募(複数の事業者と委託契約を行う前提) 6月～ 事業者決定、事業周知、事前準備（関係先との調整） 10月 事業開始
めざす支援	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業の利用の活用から既存の障がいや介護の福祉サービスにつなぐ ☞ 必要な福祉サービス等の支援につながるまで支援する ☞ 拒否的な家庭に対して、支援に入ることで、福祉サービスを受け入れる下地を作る ・既存の福祉サービスがないケース（アルコール依存症の保護者がいる家庭など）についても支援

ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

10

コーディネーターを配置したヤングケアラー相談窓口の設置

寄り添い型相談支援事業

SNSによる相談支援（ピアサポート）や元当事者が参加するオンラインサロンの開催などの寄り添い型相談支援事業を引き続き実施。追加で事業者公募を行い、ピアサポートの拡充を行う。

**(元)ヤングケアラーや
社会福祉士等の専門職が
話を聞きます。**

相談は必ず守り、悪い立場の側に立たれることはありません。
安心して相談してください。
聞いてほしいことがわからなくても大丈夫。必ず話を聞きましょう。
後援する専門職からの相談も受け付けます。



8月から事業開始
(委託事業者)
特定非営利活動法人 ふうせんの会
(ピアサポート実績)
11月末現在 相談対応 約70件

**心から安心できる居場所
オンラインサロン**

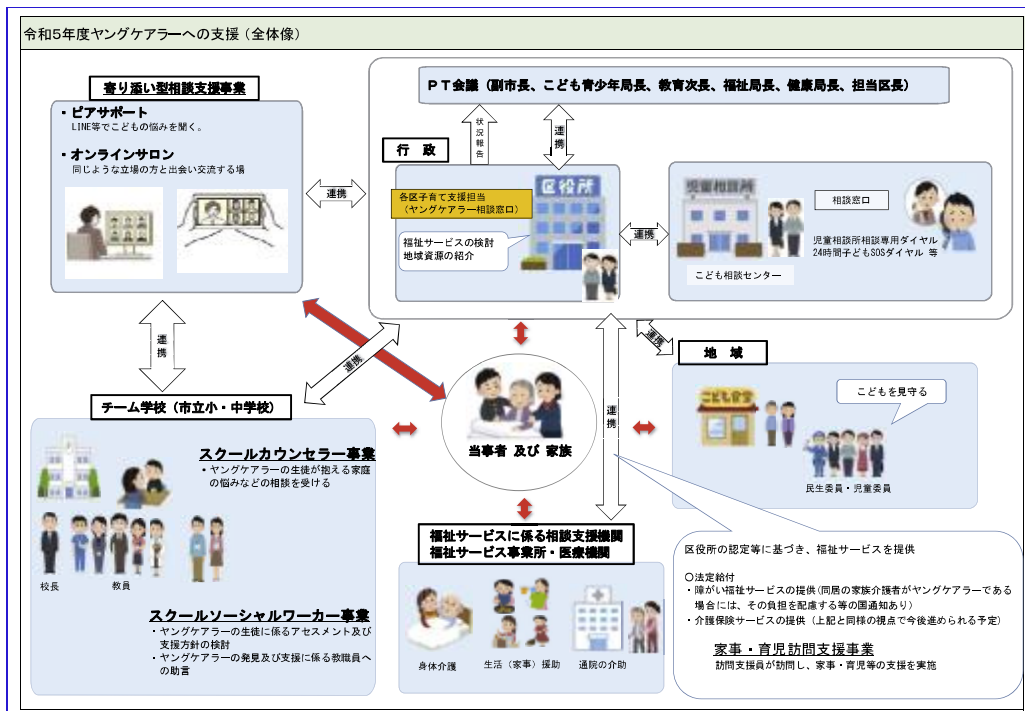
平日夜ヤングケアラーもが楽になり、
交流する場としてオンラインサロンをしています。
「わざわざ来ない」が得意な、安心して話しができる居場所です。



○外国語対応が必要な家庭に対し、病院や行政手続き、家事・育児訪問支援事業などを利用する際、外国語対応の通訳派遣を新たに実施

ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

11



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

12

【3】「ほっといたらアカン!子どもが子どもらしく生きる」を支える 団体名:NPO法人やんちゃまファミリーwith

コロナ禍で顕在化した「子どもを取り巻く課題」に寄り添い、心の声を聴き、向き合う覚悟を決める。

① 活動の紹介

- ・自治体や社協、元教員やSSW等と連携し、毎月、研修会や勉強会を行う。
- ・毎週金曜日「相談支援窓口」を開設。
- ・直接的支援としては長期休みの朝の送り出しや家事サポート応援等を行う。
- ・1月は啓発フォーラムを開催予定。

② 大切にしていること

- ・いろんなツールの中で子ども達と出会うが「目の前の子どもと親をそのまま受け入れる」こと。
- ・親子にとって安心・安全な信頼関係を築くこと。

③ 子どもたちの様子

- ・「子どもの居場所」の役割はとても大切で、子どもが自分を出せる場であったり、異年齢の子どもやいろんな大人と関わることが出来る場である。
- ・しかし、コロナ禍において、「子どもの居場所」ができなくなり、宅食訪問や物資の提供に切り替える中で、居場所では気づかなかった子どもたちの困りごとに気づくことができた。
- ・そこで、「子どもを取り巻く課題」に向き合うと決め、いろんなツールで毎週訪問をしている。
- ・訪問を繰り返すうちに、子どもが外で「来た来た～」と出迎えてくれたり、その日にあった出来事を沢山話してくれたり、近況報告もしてくれるようになった。



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

【4】 学習支援びはーと

～ヤングケアラー支援や学習支援を通した新たな子どもの居場所の創生



団体名:社会福祉法人 八尾隣保館

子どもたちが“自分らしく”楽しく過ごす居場所を目指して、アフターケアを含む子どもの居場所支援や地域への取組みとして、学習支援+居場所+相談を用意しています。

① 活動の紹介

- 毎週水・金に学習支援を実施しています。勉強の後は、大人も子ども一緒になってお菓子を食べながらおしゃべりしたり、レクをしています。
- 毎月誕生日会や季節に応じたイベントを実施しています。夏には夏祭り、秋はお月見、冬はクリスマス会を子どもたちと一緒に楽しみました。
- 11月に中学3年生には進路相談を行い、進路や勉強での悩みを聞き取りました。
- 同時期に中学1～3年生に対して、学校や家庭での困りごとや不安なことなどの生活相談も実施しました。

③ 子どもたちの様子

- ・リラックスした環境を作ることで、会話が弾み、笑顔が増えたように思います。
- ・話をする機会が増えたことで、学生スタッフとの関係性も深まり、自分から話をしてくれるようになってきました。

② 大切にしていること

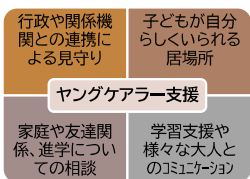
- 学習支援とヤングケアラー支援でメリハリを静かな環境の中での勉強と音楽を流してリラックス空間を作っています。
- 情報共有で見守り強化 社協や行政、小・中学校と連携し、日々、情報共有をしています。
- 母子生活支援施設のノウハウを活かす世帯の状況を理解して、子どもの気持ちを日々受容するようにしています。

- ・カフェタイムがあることで、勉強とおしゃべりとメリハリのついた時間を過ごせるようになりました。
- ・子ども同士のつながりもでき始めました。

お菓子を食べながら学生スタッフとゲームをする様子



学生スタッフのみなさん



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

【5】ヤングケアラーの子どもたちが「自分」を優先し社会参加できるプロジェクト

団体名：特定非営利活動法人み・らいず2

ヤングケアラーの子どもたちが、ケアのことも大切にしつつ、自分の時間や将来のことを大切にできるように、ケアから少し離れて、ゆったりしたり、気になる将来のことを考える機会を提供します。

① 活動の紹介

- ・自分時間プロジェクト
- ・あきらめずにチャレンジしていいよプロジェクト
- ・学校との連携
- ・地域での勉強会(シンポジウム)の開催

② 大切にしていること

- ・「自分」のためだけの時間を持つ
- ・子どもらしい時間を過ごす
- ・「自分で選ぶ」体験。
- ・困りごとをすぐに拾えるよう相談員を配置していること。
- ・「ななめうえ」の関係(大学生)

③ 子どもたちの様子

- ・当初は希望が出なかったが、活動の中ではじめての事に「やってみよう」とチャレンジできた
- ・「いただきます」「ありがとう」などの自主的な言葉かけができた
- ・きょうだいに分かれてそれぞれ自分の好きな活動を選びあそび姿がみられるようになった
- ・当初は仕事の話に興味を示さなかったがカフェ体験やアルバイト経験談を聞くことで、しごとに関する話もできるようになってきた。



カフェ体験



自分時間を過ごす



動画作成の仕事を知ろう！

ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

15

【6】「夢をあきらめない！」 ～ヤングケアラーと社会をつなぐ架け橋事業～

団体名：一般社団法人こもれび

さまざまな社会活動を通して”子どもたちとともに歩み、ともに成長する！”。そのような活動場所を提供しています。

① 活動の紹介

- ・放課後の居場所【Pour moi(ぷーもあ)】では、隔週の火曜日と月1回の休日に、クッキングや陶芸、芋ほりなどのさまざまな体験活動を実施しています。
- ・音楽体験【KMC】では、月1回の休日に、楽器や歌などの音楽活動を通して子どもとの心の交流を図っています。さらに発表の場として年間一回音楽祭を実施しています。

② 大切にしていること

Pour moi、KMCともに、自分自身の時間を大切にもらうことに加え、さまざまな体験活動を通して、子どもたちの日々の活動意欲を引き出すことを目指しています。

スタッフには社会福祉士等の有資格者も多く、子どもたちとの交流の中で発見した困りごとや課題について、関係機関に素早くつなげて連携を図ることに注力しています。

③ 子どもたちの様子

- ・Pour moiでは、同じ活動をスタッフや他の子どもと行なうことで、仲間意識や所属感を持ちやすくなっています。スタッフとはもちろん、他の子ども同士でも体験をしながら雑談をたのしんでいます。子どもたち自身、初めての体験をすることも多く、新たな社会との出会いや発見が得られています。KMCではプロのシンガーやギタリストから、さまざまな楽器や歌も教えてもらい、子どもたちは回を追うごとにメキメキと上達しています。月1回講師やスタッフから、「すごいね、うまくなったやん」と声をかけられることにより、自分に自信を持ち、学校や学習など音楽以外の活動への意欲も高まってきている子どもたちもいます。
- ・いずれの活動においても、子どもが“自分を受け入れてくれる大人”と出会い、安心感をえられることで、将来の夢や困りごとなどを言葉で伝えられるようになってきていると思います。

Pour moiの子どもたち



ギター教室の子どもたち



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

16

【7】ピアサポートの力による ヤングケアラー支援のモデル構築事業

団体名:特定非営利活動法人ふうせんの会

ヤングケアラー・若者ケアラーに心がつながる居場所を届ける

① 活動の紹介

■ピアサポート事業

- ・「つどい」:対面、オンライン併用の元・現ヤングケアラーたちが語り合える場(毎時30人程度参加)
- ・「ふうせんカフェ」:オンラインでの少人数で元・現ヤングケアラーたちが語り合える場(定員5名)

② 大切にしていること

■グランドルールの設定

- 1, ここで聞いたことは外で話さない。(この場限りですべて忘れる!)
- 2, 他の人の話を否定しない。
- 3, 他の人の話をさえぎらない。
- 4, 話したくない時は話さなくて良い

③ 参加者の様子

■事後アンケートより

- ・「初めてヤングケアラーとして過ごしてきた気持ちを少し表に出すことができた。」
- ・「初めて自分のケア経験を人と比べずに話れました。」
- ・「ケアの経験をここまで安心安全な場でお話できたのは初めてだった。」
- ・「地方に住んでいるので、オンラインという場を設けてもらえて、とても嬉しかった。」
- ・「時間が短かったため、もっと長い時間お話出来たらなと思った。」



ヤングケアラー 大阪発、寄り添い・支援を考えるシンポジウム

17

● みなさまからいただいたヤングケアラーへのエール

シンポジウムの参加申込み時にお寄せいただいたエールの一部をご紹介します。

あなたが家族に
寄り添っているように、
私たちも寄り添いたい。

どうか「“どうせ”の壁」を乗り越えて
ください。このシンポジウムに参加して
いる、見ている人とつながってください。
家族を想える若い世代が不幸になっては
いけない。未来はきっと明るい。
必ず幸せになりましょう。

あなたのことを話せる場所が
たくさんあることを知って欲
しいです。どんな話でも聞いて
くれる人はいます。

ヤングケアラーの孤独や
孤立に寄り添える人にな
りたいと思っています。

ケアマネジャーは
介護の相談役です。
悩みを一緒に考えたいです。

子どもの時にしか
体験できないことを、
あたりまえにしてほしい。

ヤングケアラーのみなさん
に頑張れとは言いません。
一緒に解決していきたい
です。

自分の人生は、
自分の為にある。
どうか自身の未来を
大切に。

応援してます！
でも応援の仕方がわから
ないので参加しました！

たくさんのあたたかいメッセージ、ありがとうございました。

あなたらしく、
生きる事を応援します。

どうか、1人で抱え込ま
ないで下さい。
差し伸べた手を握り返し
てください。

一緒に考えたい！
だからあなたのことを
もっと話して欲しい。

何か手伝えることあったら
言ってや。

当たり前だと思って、日々の
用事をこなしているあなた。
しんどいなと思った時に愚痴
をこぼせる、話を聞いてもら
える人はきっといますよ。

訪問ヘルパーです。
1番身近にいながら、行き届いた
支援ができているのかと葛藤する
場面も多いです。どうぞお手伝い
をさせてください。

かけがえない家族を守る
ために、まず自分を大切
にしてください

たくさんの人に甘えて。
みんな普通に甘えてるから。
貴方だけで抱え込むこと
はないよ。



◆◆ 書道パフォーマンス作品展示のお知らせ ◆◆

本日のオープニングで書き上げた大手前高等学校書道部の作品を次のとおり展示しますので、ぜひ、お立ち寄りください。

(1) 展示日時

令和5年1月 23 日(月)午後1時から令和5年1月 27 日(金)午後5時まで(予定)

(2) 展示場所

大阪府新別館地下鉄連絡通路

(Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目駅」1A 出口すぐ)